

<p>小学校 第1学年 A表現（1）イ（2）イ，B鑑賞（1）ア</p>		<p>実践校 垂井町立東小学校 授業者 飯田 季美佳 実践時期 3学期 全4時間</p>
<p>題材名 によきによきとびだせ</p>		

つながりを生かす

- 「もの」とのつながりについては、息を吹き入れると、袋が箱からによきによきと飛び出したり、膨らんだりするという目に向けさせ、袋に息を吹き入れる行為を通して、「もの」と積極的に関わる態度を育てたい。
- 「ひと」とのつながりを大切に、袋が膨らむ動きを生かした作品を仲間と見せ合ったり、仲間の感じ方に触れたりすることを通して、その面白さに気づき、袋の動きの生かし方や感じ方を広げることができるようにする。
- 「ちから」とのつながりについては、袋の膨らみ方から、思いのままに発想や構想を繰り返し、技能を動かしながら作り出せるようにする。

題材の流れ

第1時 袋が膨らむ仕組みを知り、動きを確かめる

教師の作例を見たり、伸びるものや飛び出すものにはどんなものがあるか考えたりする活動を通して、袋の膨らむ動きを生かした自分の作りたいものを考えられるようにした。

伸びるものや飛び出すものにはどんなものがあるかな。

第2・3時 仕組みを動かしながら、動きの工夫をする

袋に息を吹き入れ、動きを確かめながら、袋が膨らむ形に合う作りたいものを見つけ、工夫して作ることができる。袋は、長方形のものとビニール手袋の2種類の中から、自分の作りたいものに合うものを選ぶようにした。



袋はこんなふうに箱から飛び出すんだな。

ポイント1

伸びるものや飛び出すものにはどんなものがあるか最初に交流することで、全員が作品のイメージを膨らませるようにした。

第4時 作品を楽しみ、その面白さや工夫を見つける

作品の、袋が箱から飛び出すところをお互いに見合い、動きの面白さや、動きと作ったものとのつながりや工夫などを見つけ、交流した。

ポイント2

「袋はどんなふうに飛び出すかな。」と声をかけることで袋の動きを確認しながら製作できるようにした。

作品例



授業を終えて

袋に息を吹き入れて、箱から飛び出す様子から、自分の作りたいもの考えることができた。何を作ればよいか悩んでいる児童には、伸びるものや飛び出すものにはどんなものがあるか一緒に考えたり、ほかの児童の作っている様子を見たりすることで、発想を広げ、自分の作品に取り入れることができた。